

<p>201 柳の下にいつもどじょうはいない</p>	<p>202 藪をつついて蛇を出す</p>	<p>203 病は気から</p>	<p>204 よしの髓から天井をのぞく</p>	<p>205 寄らば大樹の陰</p>	<p>206 弱り目に祟り目</p>	<p>207 来年のことを言えば鬼が笑う</p>	<p>208 楽あれば苦あり</p>	<p>209 楽は苦の種、苦は楽の種</p>	<p>210 類は友を呼ぶ</p>	<p>211 瑠璃も玻璃も照らせば光る</p>	<p>212 労多くして功少なし</p>	<p>213 ローマは一日にしてならず</p>	<p>214 論語読みの論語知らず</p>	<p>215 論より証拠</p>	<p>216 若い時の苦勞は買ってもせよ</p>	<p>217 渡る世間に鬼はない</p>	<p>218 笑う門には福来る</p>	<p>219 破れ鍋に綴じ蓋</p>	<p>220 和をもって貴しとなす</p>
<p>偶然うまくいった時と同じやり方をしても、いつもうまくいくとは限らないということ。</p>	<p>余計なことをして、かえって損をしたり、災難にあったりする。</p>	<p>病氣は気持ち次第で、良くも悪くもなるということ。</p>	<p>自分の狭い知識や経験だけで、広い世界や大きな問題についてを判断しようとすること。</p>	<p>頼りにする相手を選ぶときには、できるだけ力のある人を選んだ方がいいということ。</p>	<p>不運なことや災難が、何度も重なって起こることのたとえ。</p>	<p>将来のことはわからないので、あれこれ言っても仕方ないというたとえ。</p>	<p>世の中は楽しいことはかりではないので、楽しいことの後には、必ず苦しいことが来るということ。</p>	<p>楽をしていると後で苦勞することになり、逆に、苦勞をしておくと後で楽ができるということ。</p>	<p>気の合う人や似ている人は、自然に集まって仲間になるものだということ。</p>	<p>才能や素質のある人は、どこにいても目立つということ。</p>	<p>苦勞が多いわりに効果が少なく、報われないこと。</p>	<p>長い時間と労力をかけて初めて、大きなことを成し遂げることができるということ。</p>	<p>書物をよく読んでいても、本質を理解していない。また、書物から得た知識があっても、実行が伴わない。</p>	<p>議論するよりも証拠を示したほうが、物事をすっきり解決することができると。</p>	<p>若い時に苦勞しておく、その経験が後で役に立つ。だから若い時には進んで苦勞したほうが良いということ。</p>	<p>世間には、思いやりのない冷たい人だけでなく、困った時に助けてくれる親切な人もいるということ。</p>	<p>笑いが絶えない家は、自然と幸せが訪れる。また、どんなに辛い時もくじけずに笑っていれば、幸せがやってくる。</p>	<p>どんな人にも、その人にぴったり合う相手がいるということ。また、そのような人と一緒になればうまくいく。</p>	<p>他の人と仲よくやっていくことが、何よりも大切だということ。</p>